



あかるい あすが おとずれますよう いのりです

校長 夏見隆晴

「そして、いま、わたしたちは いのりです。ひごろの おこないを さんげし、あかるい あすが おとずれますよう いのりです。」

これは、いもと ようこ 絵・文に、ピーター・ミルワード神父が英訳を付けて出来上がった絵本『祈りのとき』(女子パウロ会)の最終ページの祈り文です。

カトリック学校に長年勤務して、生徒の皆さんから学習以外で、いろいろ質問を受けた中で多かったのが「何を祈ればよいのかが よくわからない」、というものであったと思います。実は、同じ質問をイエス・キリストも弟子たちから受けて、その答えとして与えたのが「主の祈り」であったことも、生徒たちに伝えて学校では毎日となえております。それでも、上記のような質問が出るということは、もっと別の祈りも教えて欲しいということなのでしょう。別の祈りというより、別の祈り方と言った方が良いかもしれません。神の計らいは限りの無いもので、人それぞれいろいろなのでしょう。

祈りの文には、それぞれふさわしい、とき(時)と場があります。朝、昼、夕、家族で、友人と、食事を共にするとき(時)、この場合は家庭、学校などそれぞれの仕方で祈りを唱えます。また、年間の行事や祭礼のためにも、それぞれ決まった祈りが用意されています。これも、いわば団体の祈りです。そして、二人三人が集まって祈りをとなえる時、そこには共にいてくださる神様がおられるのだということも教えてあります。

それでも祈りの仕方がわからないから教えて欲しいというのは、自分ひとりで神様と触れる機会を持ってみたい、と考えているからではないのかと判断してきました。そこでわたしは、「寝る前の時間はどうしている？」と尋ねました。ほとんどの生徒が、「ベッドに直行です」と答えてくれました。昼間の疲れで眠いのでしょう。さらにわたしは、「2, 3分なら我慢できるでしょう、そして、今日一日の自分はどうかと振り返り、善し悪しを尋ねてみるのです。答えが必ず返ってきますよ。この対話も祈りなのです、やってみたら？ 祈りとは自分の言葉で神様と話をすればよいのですよ」と勧めています。

「ボナ・ノッテ」とは、イタリア語の「おやすみなさい」という挨拶の言葉です。そして、この言葉の前に、年長者の短いよき勧めの言葉がきます。「ボナ・ノッテ」によって、イタリアの子供たちは、神様との対話をつまり祈りの心を育ててきたのでしょう。このことはイタリアだけではなく、言葉こそ違え多くの国々の家庭で伝統になっている家庭教育の一環です。「お休み前の祈り」とは、明るい明日への希望へとわたしたちを導いてくれるものなのです。将来を背負う生徒たちが、神への祈りの中で、力強く明日に向かって羽ばたくことができるように、わたしたち大人も祈りの内に協力したいものです。

『学校の先生になりたい』と、将来の夢を語る生徒に出会うことがあります。本校生徒の中にも数名います。小学校からの夢だと言う生徒もいて、小学校の先生方の素晴らしい影響や感化を受けたのだろうと推測すると同時に、中高で教壇に立つ者として、襟を正す思いになります。

また、英語を教える者として、近年は高度な英語運用能力を持つ生徒が多くなったと感じます。私の英語教師かけ出しの頃には、高校生の中に、こんなにも多く英語でディベートできる生徒が現れる時代が来るとは、予想しなかったことです。中には生活言語が英語である生徒も多数いることから、英語教師としての表現力もより質の高いものが求められていて、喜ぶと同時に身が引き締まります。

そのような中で、指導者としての私の役割は何であろうかという思いが生じてきます。

私の英語力を上回る生徒の登場に、これからの私にできることは、「センス・オブ・プロポーション」のコーチングの役目を果たすことだと考えるようになっていきます。生徒には英語運用能力の高さのみでなく知的センスを高めてもらいたいと思います。そして、日本人とであれ外国人とであれ、他者と言葉を交わす日常においては、何かしらの葛藤が生まれるのが常です。他者との考え方の違いや、ものの見方の違いを認め合い、協調していく「バランス感覚」を養うことが大切であり、自分を高めることにつながるであろうと思います。

専門が英語教育である、東京大学大学院教育学部研究科教授の斉藤兆史氏が、著書『教養の力』の中で、このバランス感覚を「センス・オブ・プロポーション」の名で呼んでいて、それを身につけた人を「教養のある人」と呼んでいます。かつて、東京大学の入学試験の面接で「太平洋の橋になりたい」と述べたという、有名なエピソードを持つ新渡戸稲造氏が、今から百年以上も前に「センス・オブ・プロポーション」を教え子に説いていたことにも触れています。斉藤氏が、前述の著書の中で、「さらに最も重要なものとして、人として善良であること、つねに『善くならうとする祈り』を心に持っていることを教養の到達点としたい」とも述べていることは、興味深いことです。

我が身も、自己中心的な見方に偏していく傾向を再点検し、善くならうとする方へ向かってバランス感覚を磨きたいものです。そして、将来教師になりたいと願い、国際社会で活躍したいと願う生徒たちに、「知」のあり方をバランスよくコーチングできればと考えています。「センス・オブ・プロポーション」が、品位や高潔という表現とともに、人としてのありようを表しているようで、私のここに留めておきたい言葉の一つとなっています。

11月の予定

日・曜日	行事計画
2日(月)	振替休日(10/31の振替) 駿台マーク模試③(希望者)
3日(火)	文化の日
6日(金)	漢字検定(放課後)
7日(土)	家庭学習日 ※小学校運動会
11日(水)	小5・高1交流会 職員会議
14日(土)	体育祭予行(1日) ※弁当・水筒持参
18日(水)	委員会活動②
21日(土)	体育祭準備・予行(半日)
23日(月)	体育祭(勤労感謝の日)
24日(火)	振替休日(11/23の振替)
25日(水)	振替休日(11/14の振替)
28日(土)	内部進学・推薦入試 ※家庭学習日

生徒の頑張り！



☆池原 美琴さん（高3）が、全沖縄高等学校英語弁論大会で優秀賞に！

第50回全沖縄高等学校英語弁論大会が10月2日（金）に県総合教育センターで開催され、本校高校3年生の池原美琴さんが優秀賞に輝き、本校の高校生の部門では最高記録となりました。

おめでとうございます！！

受賞者たちとの記念撮影（池原さん下段右から2番目）



優秀賞の賞状とオブジェを持つ池原さん



☆外間 栄美さん（中3）が、全琉コンクール書道の部で最優秀賞に！

☆外間 玲美さん（中1）が、全琉コンクール書道の部で優秀賞に！

沖縄タイムス社主催第63回全琉小・中・高校図画・作文・書道コンクールの書道の部で、外間栄美さん（中3）が最優秀賞に、外間玲美さん（中1）が優秀賞に輝きました。おめでとうございます！



外間玲美さん(中1)：写真左 外間栄美さん(中3)：写真右

